

知内町24時

水平線に赤味が射す。知内町1日のはじまり。
 子どもは元気に登校、
 大人は仕事へ、お年寄りは趣味を楽しむ。
 時間はゆっくり流れ、
 町民はぬくもりの中で明日をむかえる。



夜明け

4時00分

空から降りてきた一等星のような光を放つ漁り火が、水平線に幻のように浮かんでいる。ここは矢越海岸道路の最終地点。黄金伝説のある涌元(わきもと)地区から、松前矢越道立自然公園の一角をなす矢越岬(やごしみさき)がある小谷石地区を結

ぶ。沿道に立ち並ぶ漁師の家々や民宿はいま、すべて眠りについている。

矢越海岸は、標高約850mの知内岳を最高峰に知内丸山や尖(とがり)山など、いくつものピークを連ねながら東西約10キロにわたって続く知内山地が、

津軽海峡に滑り落ちて形成された断崖絶壁。かつては「陸の孤島」と言われたエリアで、現在もここから先の矢越岬を経て隣接の福島町に至る海岸線は、いまだ道が切り拓かれておらず、道南の秘境と言われるゆえんになっている。

海岸道路の防波堤に立ち、荒磯を洗う波の音を聞きながら、月光が波間に散る津軽海峡を見つめていると、やがて空と海の境界線が徐々に赤くなってきた。矢越の夜明け。ちょうど、海から突き出たサイの角のようなイカリカイ島の向こうから、太陽

が少しずつ昇ってくる。海鳥が待ちかねたように水平線を目指して飛んでいく。まるで映画のワンシーンのような風景。知内町の1日のはじまった。